



## 海外 博物館 事情



# コンゴ国立美術館研究所(IMNC)

ムンシ・ロジェ・ヴァンジラ

(神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程)

### はじめに

コンゴ民主共和国(旧ザイール)における考古学・民族学分野で主要な美術館は、キンシャサ国立美術館と、ルブンバシ国立美術館である。以下にこれらの特徴と歴史の変遷を簡略に述べる。本報告は、(一人のコンゴ人としての)個人的な見聞と自分なりに行ったウェブ検索、2005年5月から9月にかけて実施した現地でのインタビュー調査に基づいている。

### 1 キンシャサ国立美術館

キンシャサ国立美術館研究所は1970年に、大統領令で、テルブレンのベルギー美術館と一対のものとして創設されたが、1975年からは、カトリック修道士のベルギー人、ジョーゼフ・オルレアン・コルネによって運営されている。彼は、現代アートと黒人芸術の研究に人生を捧げた人である。はじめは、キンシャサのボザールアカデミーで働き、次第に伝統工芸品の価値に目覚め、その保管に努めるようになった。キンシャサ国立美術館の研究所は、ナイル河ならびにコンゴ河流域のコレクションを収蔵している。そのコレクションは、アフリカのサハラ砂漠以南で最大なものの一つである。そこにはコルネによって一覧表に書き込まれ、カードに記載され、分類、整理された3万5千点以上の作品がある。現在、キンシャサ国立美術館は、コンゴの社会、文化的な価値の集大成とも言える6万点余りの作品を収蔵している。

キンシャサ国立美術館はいくつものセクションに分かれている。現代アートの部屋では、コンゴのそれぞれの地方、民族集団が、特有の線描や意匠や技術によって特徴づけられていることに気付く。幾つかの作品は、世界で最も権威ある美術館関係者からも絶賛されるほどである。音楽学の作品の部屋では、コンゴの伝統音楽のコレクションが全て記録されて保管されている。この部屋の責任者であるマイエンバ女史によれば、現在1,033もの伝統音楽を収録したテープが、部屋のいくつもの棚に納められている。

オリジナルの民族芸術作品が保管されている部屋には、コンゴの様々な民族の武器、陶器、壺、持参金となるもの、葬儀の仮面などが置かれている。考古学の収蔵物の部屋には、例えば、故モブツ・セセ・セコ元帥の豹の毛皮を張り、金メッキを施した二脚の椅子がある。15世紀にコンゴ河口域にやって来た白人がもたらした陶器や花瓶、さらには国内の発掘調査で見つかった中生代ジュラ紀の化石などが展示されている。

キンシャサ国立美術館研究所長のヌカンザ氏によると、現在直面している問題は、これらの作品の保管にあるという。収蔵品は高温多湿な気候条件によってしばしばダメージを受けているからだ。美術館はさらに、深刻な事態にも直面した。最たるものは、1997年5月17日、ローレン・デジレ・カピラの部隊がキンシャサに侵攻したその日に起こった略奪である。何百もの展示作品が盗まれ、それらは1,500点にも及ぶ。

### 2 ルブンバシ国立美術館

#### (a)1937年から1960年

ルブンバシ国立美術館は、コミュニティと美術館が共存する良い例である。1936年にカタンガにやってきた、ベルギーのリエージュ大学の考古学博士、フランシス・カブは、翌年、道義的な義務を果たすために1936・37年の最初の考古学調査の成果を展示した。これがルブンバシ国立美術館の誕生に繋がったのである。考古学者である派遣団のメンバーたちは、年が経つにつれて、民族学など他の研究分野にも興味をもつようになり、その結果コレクションの種類は増え多様になった。

#### (b)1960年から1970年

エリザベスビル(現ルブンバシ)の独立後の権力者は、当地にこの美術館の新しい建物を作ることを決めた。1961年に再建に至ったが、すぐに新たな戦争が始まった。美術館は国際連合の部隊によって兵舎に徴用されるという大きな惨禍に見舞われたのだ。しかしながら美術館のスタッフは、鉱業のさかんな地方であるキブシのキボポに、一

部のコレクションを移管させ壊滅から救うことができた。

1963年に戦争は終わり、コレクションはキボボから持ち帰られ、再び元の美術館に戻った。再開されたこの美術館は、カタンガ地方美術館と命名され、ベルギー国籍をもつロジェ・ド・ポエルクが保管責任者となった。ド・ポエルクの尽力により、1967年、(とりわけ美術館愛好者に支えられて)民族誌学に捧げられた二つの展示室の開設に成功した。その後、美術館は伸び悩みの時を迎えた。

### (c)1970年から現在

1970年、ベルギー国籍のギー・ド・ブラエンの管理のもとでルブンバシ国立美術館は、コンゴ国立美術館研究所 (Institute of the National Museums of the Congo, IMNC) の一翼を担っている各地域の主要な美術館のコレクションのストックを移管させていた。それらは、首都キンシャサ、南部のルブンバシ、中央部のカナンガ、北西部のムバンダカ、東部のブテンポである。略奪された国のコレクションを復元するのが、IMNCの大きな目標であった。しかし、IMNCは、1970年から75年の間は共和国大統領の保護下にはなかった。ただ、相当数の人材と物的資源には恵まれていた。

1972年から1977年の間、ルブンバシ国立美術館にはかなりの資金が投じられ、特に屋根などの大掛かりな修復工事も行われた。考古学の発掘のキャンペーンも何回も繰り広げられた。民族誌学上の資料の収集も数多く実現し、保存されていたものも幾分なりとも正確に修復された。こうして結局、5つの展示室が公開された。二つは考古学に、別の二つは民族誌学に、もう一つは昆虫学に捧げられたのである。だが、1978年より、援助金が減少したばかりでなく、ほぼ底をついた。しかしながら、収集や発掘のキャンペーンのおかげで、ルブンバシ国立美術館に文化的、芸術的、歴史的な作品のコレクションが揃うに至った。定期的に展示が行われると、興味をもつ人々も徐々に増えていった。

コンゴ民主共和国の南に位置し、ザンビアの国境からほんの数キロ離れただけのルブンバシの町は、国家の独立の際にとりわけ危険な場所であった。独立に伴う混乱は、国の文化の保護と保存の分野に大きく跳ね返ってきた。1986年の9月、ギー・ド・ブラエンの後継者となったスタッフが、優先するべき3つの事項と挙げたのは、コレクションの保護、建物の修復、訪問客数の維持であった。

### おわりに

IMNCはコンゴ民主共和国の歴史を読み直す上で、見

逃すことができない情報源である。そう考えると、まず、観光施設として育成して、豊かな文化遺産を持っているこの国の他の観光施設の活性化に向けて支援し、その価値を高める必要がある。キンシャサとルブンバシの町の文化中枢における美術館の多様な活動は、美術館と町の共存の中で、出会い、考える場を提供している。



ルブンバシ国立美術館の建物外観とその展示の様子。



ベンデ族のミンガンジ・民俗舞踊家の礼服 (キンシャサ国立美術館)